

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2016.7.25 No. 265 連絡先 042-555-1911



横田C-130H・3機＋テキサス州C-130j-30・1機 東富士で物料投下等



北関東防衛局は7月18日(月)と19日(火)、横田基地で人員降下訓練をすると情報提供しましたが人員降下は行われず、物料投下が行われました。

19日(火)は、横田基地所属のC130Hが3機とテキサス州ダイエス基地のC130j-30が1機、計4機が12時08分、東富士演習場に着き、3機が物料投下を行いその後旋回。12時20分、再び物料投下を行い、御殿場市上空を飛行して、13時ごろ横田基地に着陸しました。(写真：C130j-30)

6機のオスプレイが夜になって東富士演習場に 離着陸や旋回を行う

南関東防衛局は、7月16日(土)と、追加で17日(日)～20日(水)、MV22オスプレイ4機が離発着訓練(空挺降下を含む)を行うと情報提供していました。しかし、16日(土)は、オスプレイ1機(隊長機)が厚木基地に飛来しただけ。16日から18日までは、訓練は中止でした。

19日は、監視活動終了後の19時19分、南関東防衛局より「オスプレイ6機が岩国基地を離陸し、厚木基地に向かう」と連絡あり。20時19分、20時27分、20時40分、東富士でそれぞれ2機のオスプレイを確認。3組6機は、離着陸訓練後、旋回して南方に向かいました。

厚木基地には、21時05分、21時13分、21時15分頃に、それぞれ2機が着陸しました。

横田基地米兵、都内の中学校で「新兵訓練」(ブート・キャンプ) HPに写真



米空軍横田基地のホームページに、横田基地所属の第374医療群の米兵が、武蔵村山市立第5中学校で開催された地域交流行事に参加して、ブート・キャンプ(新兵訓練)の訓練をしている左の写真等10枚以上と説明が掲載され、都民から批判の声が上がりました。

この行事は7月2日に学校主催で行われました。講座はいくつもあり、地域の人らが講師を務め、全生徒が参加しました。

「ミニ・ブートキャンプ」の講座には、3年生の30人以上が参加。空軍の兵士らが敬礼の仕方や整列、行進を指導。その後、砂場でほふく前進や担架で土のうを運んだりする障害物競走をしました。横田基地HPには、生徒と米兵の集合写真、兵士が戦場で使う迷彩用顔料(ドーラン)を塗った女生徒の写真、生徒の名前がはっきりわかる写真、ほふく前進している写真などが掲載されていました。地域交流行事に5年前から横田基地の米兵が参加していました。中学校で「新兵訓練」、写真の公開、大問題です。

米軍横田基地 新司令官にモス大佐が就任

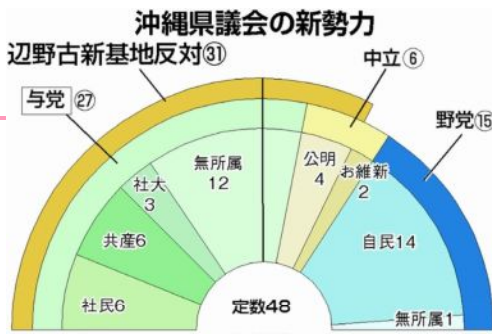
6月24日、横田基地で基地司令官の交代式が行われ、デラマター大佐に代わり、新司令官にケネス・E・モス大佐が就任しました。(ドーラン中將(左)から軍旗を受け取るモス大佐。横田基地HPより)



参院選沖縄 「新基地はつくらせない」伊波洋一氏 大差で圧勝 (No. 265 裏面)

7月10日投開票の参院選沖縄選挙区では、名護市辺野古の米軍基地建設の是非が最大争点とな

候補者名	得票	りました。そして「オール沖縄」の伊波洋一氏が現職の閣僚の島尻 安伊子氏に約10万6千票の差をつけ圧勝しました。
伊波 洋一	356,355票	
島尻安伊子	249,955票	



沖縄では 2013 年末に仲井真前県政と自民党が公約を裏切り、辺野古新基地推進に転じて以来、新基地反対の「オール沖縄」勢力は、名護市長選、県知事選、総選挙、今年6月の県議選と、7月の参院選に勝利しました。

沖縄選挙区では衆参とも基地建設勢力は敗北しました。6月5日に投開票された沖縄県議選は、県政与党が定数48のうち27議席を獲得。自民党は、議席増を狙って19人の候補者を擁立しましたが、14議席にとどまりました。

安倍政権 「高江」工事強行 「辺野古」県を提訴 沖縄に強権ふるう



参院選投開票日の翌日の7月11日から、沖縄・高江の米軍ヘリパッド(着陸帯)建設工事が再開されました。多くの住民らが N-1 ゲート前につめかけて工事反対を訴えていますが、全国から動員された数百人の機動隊が住民を強制排除(写真)しています。

さらに政府は7月22日、名護市辺野古の米軍新基地建設を巡り、県を相手取って違法確認訴訟を提訴しました。まさに強権政治!

「繰り返される米軍人・軍属による重大犯罪に関する意見書」(羽村市議会)

今年4月下旬から行方不明となっていた沖縄県うるま市の女性が遺体で発見され、元海兵隊員の米軍属が5月19日に死体遺棄容疑で逮捕されるという凶悪事件が発生し、国民に衝撃を与えた。

この事件は、今年3月13日に那覇市で発生した米軍人による女性暴行事件に関して、同月22日に沖縄県議会が抗議決議を可決した直後に発生した。また、6月4日には沖縄県嘉手納市で米軍人が酒酔い運転による交通事故を起こし、2名に重軽症を負わせる事故が発生した。死体遺棄事件を受けて、在沖縄米軍が基地外での飲酒を禁止している最中のことだった。

繰り返される米軍人・軍属(以下「米軍人等」という。)によるこのような重大犯罪は、日本国民の生命をないがしろにするものであり、断じて許されるものではない。横田基地をかかえる自治体の議会として、深い悲しみと、強い怒りを覚えるものである。

在日米軍は、米軍人等による事件・事故が発生するたびに、綱紀粛正、再発防止及び関係者への教育等を徹底するとしているが、その実効性には、強い疑問を抱かざるを得ない。

よって、羽村市議会は、日本国民の人権・生命・財産を守る立場から、繰り返される事件に対し厳重に抗議するとともに、下記の事項が速やかに実現されるよう強く要請する。

記

- 1 日米両政府は、在日米軍人等の犯罪を根絶するための実効性ある対応をはかること。
- 2 米軍人等の特権的に扱う身柄引き渡し条項を含む日米地位協定の抜本的な改定を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。平成28年6月28日

(内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣 あて)